

第 7 3 回国立民族学博物館運営会議議事要旨

日 時 令和 6 年 1 0 月 4 日（金） 1 4 : 5 6 ~ 1 8 : 0 7

場 所 国立民族学博物館第 1 会議室

出席者

（館外） 岡田、木川、窪田、後藤、佐々木、高倉、富沢、中谷、水沢の各委員

（館内） 飯田、宇田川、島村、鈴木（紀）、丹羽、日高、福岡、山中の各委員

（陪席） 吉田館長、須原管理部長、一嶋総務課長、小野研究協力課長、馬場財務課長、
前原企画課長、中山情報課長

（事務局） 河野総務企画係長、高藤総務企画係主任

議事に先立ち、福岡議長から、本会議は、国立民族学博物館運営会議規則第 5 条第 1 項及び第 3 項による成立要件を満たしている旨の説明があり、総務課長から配付資料の確認があった。

議 事

1. 会議の運営について

（1）館長挨拶

吉田館長から、第 7 3 回国立民族学博物館運営会議（令和 6 年度第 3 回）開催にあたり、挨拶があった。

（2）前回議事要旨（案）の確認について

福岡議長から、資料 1 に基づき、第 7 2 回国立民族学博物館運営会議（令和 6 年 7 月 1 9 日開催）の議事要旨（案）の確認が行われ、原案どおり承認された。

2. 協議事項

国立民族学博物館長の選考に入る前に、吉田館長が退席した。また須原管理部長、総務課長及び事務局を除く陪席者が退席した。

（1）国立民族学博物館長の選考について

資料 2 に基づき、機関の長の選考基準についての説明を行い、続いて、前回の運営会議において、館長候補適任者名簿案に記載する者を決定したこと、館長候補者調査専門委員会を設置したことについて報告があった。引き続き、館長候補者調査専門委員会委員長の宇田川委員から、館長候補適任者名簿作成の経緯について報告があった。

投票に先立ち、投票立会人の選出が行われ、館外から岡田委員、館内から宇田川委員が指名され、館長候補適任者名簿に基づき選考の審議を行い、単記無記名による投票を行った。その結果、館長候補者が選出され、本会議として同人を次期館長候補者として機構長に推薦することを決定した。

（2）教員人事について

福岡議長から、資料 3 に基づき、人事委員会から提案のあった 3 件の採用案件（准教授の採用 1 件、助教の採用 2 件）について審議願いたい旨の説明があった。続いて、選考委員会の各主査から選考経過等について説明があり、審議、投票の結果、全件承認された。

3. 報告事項

(1) 人事異動について

総務課長から、資料4に基づき、前回開催の運営会議以降の人事異動について、報告があった。

(2) 人事委員会について

福岡議長から、資料5に基づき、令和6年9月11日にメール開催、9月27日にウェブ会議にて開催された人事委員会について、報告があった。

(3) 共同利用委員会について

宇田川委員から、資料6に基づき、令和6年8月27日にメール開催された共同利用委員会について、報告があった。

(4) 共同研究代表者の特別客員教員の受入れについて

福岡議長から、資料7に基づき、人事委員会から提案のあった共同研究代表者の特別客員教員5名の受入れについて、報告があった。

(4) 国立民族学博物館の動きについて

1) 国立民族学博物館の最近の動きについて

各委員等から、資料8から14に基づき、以下の報告があった。

- ・山中委員から、入館者数等について
- ・福岡議長から、本館の活動状況について
- ・宇田川委員から、学術交流協定の締結について
- ・丹羽委員及び吉田館長から、総研大について
- ・財務課長から、令和5年度決算報告及び令和7年度概算要求について
- ・須原管理部長から、財政状況について

2) 国立民族学博物館をとりまく動きについて

吉田館長から、資料15に基づき、次の事項について報告があった。

- ・海外からの表敬訪問について
- ・厨子甕、骨壺の返還について
- ・北米先住民関連資料への問い合わせについて
- ・本館展示「中国地域の文化」への意見について
- ・人文知応援フォーラム「次世代リーダーのための人文知研修」について
- ・土地借料について

4. その他

館外委員から寄せられた主な意見は次のとおりであった。

- ・次の人事計画をスタートする際は、館の戦略を見直す必要があると思う。地域をベースにした組織の成り立ちであったり、博物館という存在自体であったり、今まで培ってきたものが自分たちの意図とは異なる見方をされるような時期に差し掛かっているように思う。
- ・ヨーロッパ等の博物館の動向と同様、今後、返還要求が増えるのは間違いなく、考えるを得ない。要求する方々と丁寧な対話をしてほしい。
- ・コロナ禍から回復したことが共同研究会の開催状況等からよくわかる。今後、予算削減に伴って、民博の諸活動の質が低下することが決してないように、資金獲得の方法を考

えてほしい。

- ・総合研究大学院大学では専門家・研究者の養成を目的としているが、門戸を広げるようリカレント教育をする等、大学院の位置づけ・教育の内容を考える必要がある。
- ・決算報告には外部資金（科学研究費補助金・寄附金等）を含めた記載にすると、民博の活動がよりわかりやすくなる。
- ・特別展「吟遊詩人の世界」は非常に洗練された展示であるが、地域に分かれて展示が構成されているので全体像をつかむことができない。現代美術の作品が一部にあったが、その作品があることでユニバーサルなメッセージが生まれていると思った。地域展示に生じる緊張感をアーティストが解放してくれているように感じ、調査・研究だけではなくクリエイティブな作品も必要だと思った。
- ・民博では事業、展示、研究の中で、重要なものは何かを絶えず検討しながら、経費削減について工夫が必要と思った。特に事業、展示についてはスポンサーからの支援など外部資金獲得の余地がある。

以 上